

②〔書式（団体）〕

令和元年防災功労者内閣総理大臣表彰推薦書

			推薦順位	
省庁名	内閣府	区分	防災体制の整備	
ふりがな 団体名等	ながれやましとうぶちくじちかもれんごうきょうぎかい 流山市東部地区自治会連合協議会	ふりがな 代表者名	わたなべ やすひで 渡邊 恭秀	
所在地	流山市松ヶ丘5丁目677番地の11			
表彰歴	平成29年9月12日 防災功労者担当大臣表彰			
功績概要	平成17年に流山市の東部地区に位置する24自治会が連携し、同協議会を設立。自治会の枠を超えて地域の防災力向上のための活動を継続して行っており、地域コミュニティの維持・活性化を図っている。 毎年行っている防災訓練は、地域住民と中学校の生徒が一体となって参加することや、さらに地元の企業も加わり大規模な合同防災訓練を実施し、中学生に対する防災教育や普及啓発活動を行うとともに、地域コミュニティの維持・活性化を図る等により、地域の防災力を高め、災害に強いまちづくりを行っている。 小学校区別に避難所運営マニュアルを作成し、年間2回の定期的な運営委員会を開催していること。同協議会と中学生が連携し、合同で地区防災マップを作成している。 また、小学校区別に地域の特性等を検証し、その特性等に応じた「東部地区防災計画」を作成することで地域コミュニティの維持・活性化に大きく貢献している。 地元の企業と「災害に強いまちづくり応援協定書」を結び、大規模災害（風水害、地震、竜巻災害等）が発生した場合、応援を要請することが出来るものとし、企業は平時より人命救助の実践的訓練を行い、要請又は自主的判断により防災活動を行うものとしている。			
功績概要 の ポイント	1) 地域に根付いた合同防災訓練は、幅広い世代が参加する地区の一大イベントとして定着しており、市外から多くの視察が来るなど他の自主防災組織の模範となっている。（平成30年度は1,795名が参加し、19の訓練を実施。） 2) 地域の特性に応じた防災計画を作成のため、防災科学技術研究所と協力し、年間5回のワークショップを開催し、地域全体の理解を高め、地区防災計画を作成した。 3) 中学生と地域の結びつきが強く、協議会と共同で防災マップ作り、避難所運営訓練、炊き出しなどを行うことで実践的な防災教育がなされている。			

③

推薦省庁名（内閣府）

功 績 調 書

1. 被表彰団体等の名称等

ふり がな	ながれやましとうぶちくじちかみほんごうきょうぎかい
団体名等	流山市東部地区自治会連合協議会
ふり がな	わたなべ やすひで
代表者名	会長 渡邊 恭秀
設立月日	平成17年7月2日
住 所	千葉県流山市松ヶ丘5丁目677番地の11

2. 団体等の規模等

・ 規模・組織等

ア. 規模

参加自治会数	24自治会
参加自治会地域人口	約24,000人

イ. 組織

会長1名
副会長1名
会計1名
役員等36名

・ 沿革

平成17年7月2日 流山市東部地区の地域諸課題を解決するために設立
現在に至る

3. 表彰歴

平成29年9月12日 防災功労者担当大臣表彰

4. 功績内容

平成17年から流山市東部地区の地域諸課題をお互いに論議・協議し、解決の為に現在の協議会を設立。

平成23年から流山市東部地区に位置する他団体（社会福祉協議会、民生児童委員協議会、各小中学校長、PTA会長、各種病院、幼稚園・保育園、商業団体&商店会、第16・23消防分団）等の連携が重要であると考え、同協議会の会議等への参加を呼び掛け開催している。

平成24年9月に「市総合防災訓練（向小金小学校区）」に、同協議会としての協力と支援を実施。（地域住民等が約800名参加）

平成25年1月に国（自衛隊松戸駐屯地）・県（流山警察署）・市（防災危機管理課、コミュニティ課、社会福祉課、東消防署）が講師となり、地域の防災力向上についての知識を深めるため「東部地区大規模災害時対応シンポジウム」を開催。（同協議会役員

等約80名参加)

平成25年9月に、東部地区の地域諸団体約500名と東部中学校生と生徒700名が集まり、合同防災訓練を実施。(全体で約1,200名の参加)

同年10月、同協議会の構成自治会長と東部中学校生徒(1年生)が協働で、東部地区の「地区防災マップ」を作成するとともに、地域の防災力向上についての知識を深めるため、東北大学の海野教授の講演「3.11に学ぶ大地震のメカニズム」を聴講。

平成26年度の功績内容

(1)「両小学校区別避難所運営委員会」を設置と開催。

定期的な運営委員会の開催は、年2回(上期7月・下期1月)に定め、同協議会事務局が運営を担当し、災害時の被害想定について、地域の特性等を踏まえた活発な意見交換を行い、避難所運営マニュアルの見直しを行った。

(2)交流会への参加と防災知識の習得

市と(独)防災科学技術研究所(当時)が主催する「災害に強いまちづくり」交流会に参加。「実践プログラム」を習得することで、地域防災力の向上に努めた。

(3)合同防災訓練の実施

東部地区の地域諸団体や地域住民(約700名)と東部中学校の生徒約100名が合同で、市及び消防署、消防団と一緒に中学校の校庭や体育館等を使用して、合同防災訓練を実施。

平成27年度の功績内容

(1)両小学校区別避難所運営委員会を開催。

両校区で7月、1月と行った。上期は、両小学校による災害時から復旧開校に至るまでプログラムの紹介があり、下期は、自治会単位で作成した「自主防災行動マニュアル」の紹介と自治会単位での避難行動マニュアル作成促進。

(2)合同防災訓練の実施

東部地区の地域諸団体や地域住民と東部中学校の生徒が合同で、中学校の校庭や体育館等を使用して、市及び消防署、消防団と一緒に合同防災訓練を実施。

新潟県燕市から合同防災訓練の視察団(市職員、学校職員、自治会役員等)が訪れ、訓練後に同協議会と防災に関する意見交換を行った。

(3)東部地区防災計画のためのワークショップを開催

災害対策基本法の改正に伴い、流山市地域防災計画を基に「東部地区防災計画」を策定するため、(独)防災科学技術研究所(当時)のアドバイスを得ながら、年間5回のワークショップを行い、5回目のワークショップでは、計画内容の発表説明会を行った。

(4)「流山市東部地区防災計画(地震編)」の策定

東小学校区と向小金小学校区に細分化して作成し、全体を東部地区防災計画と編成している。平成28年5月の総会で承認。

平成28年度の功績内容

(1)両小学校区別避難所運営委員会を開催。

両校区で、上下期2回開催した。上期は主にH28各小学校避難所組織等について、下期についてはマニュアルの見直し等について検討を行った。検討を受けて各小学校のマニュアルについて一部訂正を行った。

(2) 地域ぐるみ支え合い活動推進会議の開催

災害時における避難行動要支援者や要配慮者への支え合い活動等についての基調講話を流山市に依頼し、自治会、福祉関係各組織団体、市議等が一体となって具体的活動についての論議検討を行った。24自治会で行政の要配慮者等名簿の保管受諾について18自治会が受諾することとなった。

(3) 合同防災訓練の実施

東部地区の地域諸団体や地域住民、地元企業と東部中学校の生徒が合同で、中学校の校庭や体育館等を使用して、市及び消防署、消防団と一緒に合同防災訓練を実施。新たなコンテンツとして、①地元企業が廃材・瓦礫を所有する重機で搬入し、消防署員がダミーを使って参加した地域住民に人命救助の実戦的訓練を指導した。②従来のロープワークをアレンジし、結び目の習得と災害時の物干し台に活用するロープ応用編を中学生に教えた。③自衛隊から、2011.3.11震災、常総の水害災害、熊本の震災の3本立てVTRを教室で上映を行った。

(4) 地元企業との「災害に強いまちづくり応援協定書」の締結

地元本社を置く解体業者と「共助」の精神に基づき、協力して災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的とする「災害に強いまちづくり応援協定書」を締結した。

～「防災担当大臣表彰」受賞後における顕著な功績～

(1) 平成29年度合同防災訓練の実施

流山市立東部中学校で開催。中学生、自治会、地元企業等合わせて1224名が参加。避難所運営については中学生と自治会が合同で、避難受付、簡易ベッド、簡易間仕切り、簡易トイレの作成などを行い、快適な避難所生活について考えるきっかけとなった。

(2) 平成30年度合同防災訓練の実施

流山市立東小学校で開催。小学生、中学生、自治会、地元企業等合わせて1795名が参加。過去最高の参加者を記録。訓練内容は降雨体験や児童引き渡し訓練など新たな項目を含め、19項目に及んだ。

(3) 両小学校区別避難所運営委員会を開催。（それぞれ年2回）

行われた防災訓練などから避難所運営マニュアルについて、検証を行った。各小学校で年2回、現状に即したマニュアルに変更を行った。